

つながり広げて 前進した一年

青年部



活気ある青年部を！

新年あけましておめでとうございます。
組合員、御家族の皆様

新年あけましておめでとうございます。
組合員、御家族の皆様には、日頃より組合運営・組合活動に対し、深い御理解と御協力を賜り、心より御礼申し上げます。
青年部層はもとより、

昨年、二〇二六年一月十五日(木)午後七時三十分から大建労会館五階で「青年部旗びらき」を開催しました。

多くの仲間と交流

主婦の会

明けましておめでとうございます。
本年も大建労を主婦の会をよろしくお願ひいたします。
秋の拡大月間では住吉支部、寝屋川支部の皆さんと共に拡大行動に奮闘しました。



主婦の会役員一同

また、支部のBBQにも参加し、多くの仲間と交流させて頂きました。
主婦の会の輪を広げるため、一人でも多くの仲間の皆様に参加いただけるよう、色々な楽しい行事を企画していきますので、この一年もよろしくお願ひいたします。

今年も開催！ 青年部旗びらき 職人仲間を増やそう

二〇二六年一月十五日(木)午後七時三十分から大建労会館五階で「青年部旗びらき」を開催します。

「青年部旗びらき」では日頃建設現場で働いている若い組合員同士が集まって、現場や家庭、プライベートの悩みなどを気さくに話し合うことが出来ます。
また、お弁当や飲み物も気軽に参加していただき、新しい繋がりで大いに楽しみましょう。



青年部 山口書記長

※参加費 無料
※申込 所属支部までご連絡ください。

私と大建労

【住吉支部 中野照司】

大建労に加入して私は人とのつながりが大きくなったと感じる。
組合活動四十五年、若い時は野球部や釣りクラブ、そして教宣部で松島

那須高原&日光東照宮 に行ってきた



クラシックカー博物館

那須高原まで車で十時間も寄って、周辺を楽しみました。この日は、グランドメルキュール那須に宿泊して温泉と飲み放題を満喫。
次の日は、旅のメインでもある日光東照宮へ。修学旅行生と外国人がごったがえす中、派手な装飾の建造



日光東照宮

【寝屋川支部 渡辺典臣】

間。へろへろになりながらエビチール那須ホテルに到着。さすが皇族の避暑地、気候も温泉も気持ちよく、食べ物も美味しかったです。
次の日は、ロープウェイに乗りに行き紅葉を楽しみ、通り道にあったクラシックカー博物館なども寄って、周辺を楽しみました。

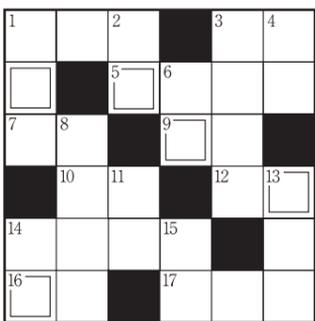
物を拝観。
その後、家路に向かうことにしましたが体力が尽きて急遽、グランドメルキュール浜名湖に宿泊。温泉と飲み放題を楽しみ就寝。翌日、大阪に帰ってきました。
一人ですと運転は、めたし、めたし。

我が家の正月の過ごし方

【堺支部 舟橋眞理子】

皆さん新年明けましておめでとうございます。今年も全員の帰ってきて賑やかなお正月になりました。
子どもたちが小さい時は、毎年年末・年始には田舎に飛行機で帰っていましたが、それぞれ大きくなって自分たちの遊びを見つけると夫婦だけの生活になっていき、二人で正月に映画を見に行くようになりまし。

新春クロスワードパズル



カギを解き二重枠の文字を並べてできる言葉を答えましょう

【タテのカギ】
①喉の
②力士の基礎
③賞間
④高いが防虫効果があり長い
⑤中盤終盤
⑥20
⑦13
⑧14
⑨17

【ヨコのカギ】
①終了の
②日本の職人
③恐怖症
④登山が好き
⑤増すこと
⑥二割
⑦夫の対
⑧国会で制定する
⑨結婚を挙げる
⑩一時的
⑪便
⑫休業

＜応募＞ハガキに回答・住所・お名前・支部名を書いて大建労本部教宣部へ。FAXでの応募も可。しめきりは1月31日(当日消印有効)＜賞品＞正解者の中から抽選で20人にJCBギフトカード1000円分を贈呈。当選者は『建設労働』3月1日号で発表。
＜応募資格＞組合員とその家族。
※家族の方は組合員名を書き添えてください。

各支部記帳講習会・申告説明会日程

1月	2月	3月
14日(水)堺II年調	1日(日)堺、東淀川	1日(日)堺、生野、福島
15日(木)堺II年調、東住吉平野	2日(月)堺、生野、福島	2日(月)堺、生野、福島
17日(土)港	3日(火)堺	3日(火)堺
18日(日)城東鶴見、泉	4日(水)堺	4日(水)堺
佐野、門真、寝屋川	5日(木)堺	5日(木)堺
20日(火)松原、羽曳野、富田林	6日(金)堺、吹田	6日(金)堺、吹田
21日(水)西成	7日(土)吹田、寝屋川	7日(土)吹田、寝屋川
	8日(日)東住吉平野	8日(日)寝屋川
	9日(月)堺、東成	9日(月)本部
	10日(火)寝屋川	10日(火)本部
	11日(水)住吉、守口	
	12日(木)豊中	
	13日(金)豊中	
	14日(土)大東	
	15日(日)堺、東住吉平野、東淀川、泉佐野	
	16日(月)堺、茨木	
	17日(火)堺、寝屋川	
	18日(水)西淀川、大東II完全	
	19日(木)堺、西成	
	20日(金)松原、羽曳野、富田林、岸和田	
	21日(土)都島、城東鶴見、岸和田、寝屋川	
	22日(日)東住吉平野、都島、城東鶴見、守口、岸和田、寝屋川	

各支部税金申告会日程

2月	3月
1日(日)東成	23日(月)守口、寝屋川
6日(金)堺	24日(火)堺
7日(土)港、寝屋川	25日(水)池田、寝屋川
8日(日)東住吉平野	26日(木)吹田
9日(月)堺、東成	27日(金)堺、泉佐野
10日(火)寝屋川	28日(土)城東鶴見、寝屋川
11日(水)住吉、守口	
12日(木)豊中	
13日(金)豊中	
14日(土)大東	
15日(日)堺、東住吉平野、東淀川、泉佐野	
16日(月)堺、茨木	
17日(火)堺、寝屋川	
18日(水)西淀川、大東II完全	
19日(木)堺、西成	
20日(金)松原、羽曳野、富田林、岸和田	
21日(土)都島、城東鶴見、岸和田、寝屋川	
22日(日)東住吉平野、都島、城東鶴見、守口、岸和田、寝屋川	

※各支部で予約制などを行なっている場合があります。ご確認ください。

戦後80年を 超えて

住吉支部 小森国弘さん (85)

(タイル張工)

食料不足の経験

四人兄弟の次男として京丹後市峰山町で生まれた小森さん。父は、戦争に向かう兵士の散髪(軍属)を主な仕事とし、母はその手伝いをしていました。終戦間近、父は兵士とともに九州(戦地)に兵士の散髪のために同行し、移動中に終戦。「父が無事に帰って来てホットした」と話します。

戦争が終結して安心したのも束の間、父の散髪の仕事が激減。それをきっかけに、父は副業として畑でサツマイモを作って家族を養う日々。「当時は安価だった、いかに塩辛とサツマイモだけで暮らす日々が続いた」と食糧難だったことを教えてくれました。

日々の生活の中で、子どもならおやつが好きはずです。楽しみにしていた物はありませんかと尋ねたところ、「当時のおやつはキュウリだった。工として、技術を身につ



日本の降伏で太平洋戦争が終わったのが、一九四五年の夏です。昨年は、そこから数えて戦後八十年になります。

八十年もの歳月が流れると、戦争を体験した人は少なくない、若い人は遠い昔の出来事と感ずるようになってきているのではないのでしょうか。

そして、荒廃した国土の再建に尽力するために、戦後復興の担い手としての役割を果たしてきた建設産業。

戦後復興による、建設ラッシュの影響もあり、工事が急増し、建設企業が次々と誕生しました。

そうした中で、人々の暮らしの基盤をつくる平和産業である建設業に携わり大建労に加入。様々な経験を積んで、戦争が与えた影響を二人の組合員さんに話していただきました。

「ほかに、イナゴの丸焼きです。裏山の畦道で、稲にとまったイナゴをたくさん獲って、焼き鳥串のように串刺しして焼いて食べます」「あとは、タニシを茹でて殻から出して食べたりしていましたね。警戒が出来る状況でもなく、日々の生活が少しでも楽しくなるように工夫する姿が思い浮かびました。

大建労との出会い

高校卒業後進路に思い悩み、父から左官やレンガ積みをしていて社長を紹介され、その社長が大坂でタイルの卸しをしていてる会社を紹介したことが建設業に関わるきっかけとなったと話します。小森さん。その会社は、卸しだけではなく、建築現場でタイル工としての仕事もしていたので、「タイル工として、技術を身につ



かつて本部三役として活躍された小森さん。建保の理事・常務理事を経て、副理事長及び大建労

「難しい話でもダメ。誰もついてもない。誰かが終わってからは、酒を飲んで飲んで交流を求めていた。いつの間にか二十人増えた」と仲間を増やす方法を教えてくれました。その後、支部の書記長を務めた後に本部執行委員として教宣部副部長、教宣部長として、『建設労働』に携りました。

職人のための組合とはいえ抵抗はなかったのかと聞くと、「理髪組合のまとめ役をしていた父が、職人も人並みの生活が出来るようにしたいという思いで、自分もそう思って抵抗はなかった」と自信を持って話してくれました。

役員としての道のり

住吉支部に加入。加入後すぐに、青年部の会合に呼ばれた小森さん。青年部部長の藤田さんと二人で会議をしていた時に、いきなり「青年部書記長をしてほしい」と打診され、何事もチャレンジャー精神が大切と考え、首を縦に振った小森さん。

青年部書記長として、様々な要求をしていく上で、団結する事が重要と考え、仲間を増やすことを目標に活動。

戦後八十年を超えて

戦後八十年を超えて今は、どう思いますか。

「日本がそのまま平和である保証はない。口だけで平和と言っても維持することは難しい。知恵を出し合って、弱者にならない努力をする必要がある。火の用心や戸締りなど個人はしますよね? それと同じで国も備えが必要。国力の充実やインフラ整備など。幼い頃に経験した食料不足の経験は、とても辛かった。その経験をこれからの子どもたちにさせたくありません」と経験したからこそ言葉の重みがありま

都島支部 岡崎豊一郎さん (86)

(大工)

今の生活は贅沢だ

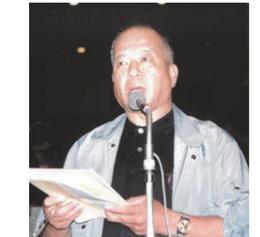
三人兄弟の長男として大阪市住吉区万代池付近で生まれた岡崎さん。父は、呉服屋で働き、家計を支えていました。戦時中の生活は、鍋を手に持って、配給を受ける日々。現代では、当たり前のように食事が取れる状況に「今の生活は贅沢だ」と岡崎さんは語気を強めます。

五歳の時、空襲警報が鳴り、防空壕に避難。焼夷弾が空から降ってきた。焼夷弾とはどのようなものか尋ねたところ、「イメージは、ロウソクが火花みたいにパツと開いて落ちてくる。遠い所だったので全く怖くなかったけど、近かったら本当に怖い」と話します。

その後、近所が焼夷弾の被害に遭い、焼失。身の上で、今は、軽トラの危険を感じ、母の田舎の石川県に疎開しました。そして、石川県の七浦村立国民学校(今の小学



2026年 午年



長年、大建保の理事長として活躍された岡崎さん

校に通い、教科書は自分の分はなく、一つ上の生徒からもらっていたそうです。

現代では、当たり前のことだが、当たり前に出る謝罪の大切さを教えてくれました。

石川県で村人から「大坂で大工を募集しているからやってみないか」と紹介され、母からも「大工をして手に職をつけたら稼げる」と後押しされ、十五歳で大工の道へ。再び大阪に戻り、大阪府都島区の工務店で勤務することが決まりました。

過酷な見習い期間

材料運びや木材の釘抜きの見習いを一年半こなし、見習い二年半を終えてきた岡崎さん。材料運びでは、「今は、軽トラで運ぶのは、当時の大建保の大工教室に興味を持ったからです。

食べ物

見習い期間を経て大工として、働いていた岡崎さん。

学校で机やイスの修理をするのが多く、印象的に残っていることとして、子どもがコッペパンを投げて遊んでいるのを見た時に思わず怒鳴ったそうです。

戦争の経験で、苦しい生活を送ってきたからこそ食べ物や物を大切にすることが多い。昔はそんなことが出来なかった。今でも戦争で食べ物がない国もある。もっと食べ物や物を大切にしたい」と思いを伝えられました。

戦後八十年を超えて

戦後八十年を超えて今は、どう思いますか。

「悠長に構えてはいけません。日本が他国に攻められたことも考えるべきだ。戦争になったらもう遅い、簡単に止めることは出来ない。私は、戦争を経験したからこそ言えるが、戦中はひどい。辛い。こんな経験は二度とすべきではない」と経験したからこそ言葉の重みがありました。

大建労との出会い

きっかけは、二級建築士の資格が欲しいと思い、当時の大建保の大工教室に興味を持ったからです。

最後に、「五年先の大建保を見てみたい。職人が置かれている環境は、過酷なことが多い。このままなら職人は減る。そこで大建保ならどうしていいのか」と、これから大建保がどれだけ職人さんに寄り添うことが出来るのか、今後の期待を語ってくれて取材は終了しました。

